

中山忠彦 (なかやまただひこ)

1935(昭和10)年～2024(令和6)年

中山忠彦は、福岡県小倉市(現北九州市)出身の洋画家です。1944(昭和19)年に疎開のため、両親の地元である、下毛郡三保村(現中津市)に移住し、高校卒業までを中津で過ごしました。

中山は、県立中津西高等学校(現県立中津南高等学校)に入学し、美術部に所属します。高校では、美術教員で、版画家でもあった武田由平に指導を受け、絵画の基本を学びました。県展などにも入賞、卒業の翌年の第10回日展では『窓辺』で初入選を果たします。

高校卒業後は上京し、洋画家伊藤清永の弟子となります。伊藤の元で精力的に活動し、画壇で、その地位を確立していきます。また、1965(昭和40)年には若林良江と結婚、以後、妻をモデルにした作品を多く制作・発表してきました。

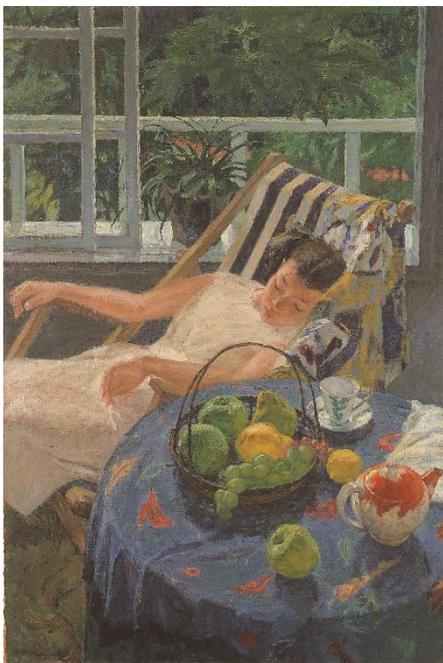
1969(昭和44)年、改組第1回日展に『椅子に倚る』を出展、初の特選となりました。この『椅子に倚る』も、妻良江を描いた作品です。欧州の民族衣装を着た妻をモデルに描いています。

のちには、欧州で直接買い付けたアンティークドレスをきた妻の絵を数多く制作、人物の写実表現や、女性の美の表現を追究していきます。以後、日展理事などを歴任。日本藝術院賞を受賞し、日本藝術院会員にもなります。

2009(平成21)年には日展理事長に就任。同年、中津市民栄誉賞受賞します。

2018(平成30)年には、中津市木村記念美術館にて「中山忠彦展～美の追究～」を開催。多くの市民が訪れました。

また、母校三保小学校では、毎年六年生への絵画教室を開催しています。人物のスケッチ制作を通して、子供たちに、絵画の基本や、描く楽しさを伝えています。



「窓辺」(1954年)



「椅子に倚る」(1969年)